

第17回 河川生態学 学術研究発表会

日時：平成26年11月12日(水)

研究発表会：10:30～17:00

懇親会：18:00～19:30

場所：発明会館ホール

東京都港区虎ノ門2-9-14(裏面参照)

参加費

研究発表会：**無料**

懇親会：4,000円(程度)

プログラム

午前の部

●斐伊川研究グループ成果報告

10:30～12:05
座長：山室 真澄(東京大学 教授)

●十勝川研究グループ成果報告

10:35～11:20
座長：中村 太士(北海道大学 教授)

●ポスターセッション

11:20～12:05

12:45～13:35

午後の部

●菊池川研究グループ成果報告

13:35～17:00
座長：島谷 幸宏(九州大学 教授)

●河川総合研究グループ成果報告

13:35～14:20
座長：萱場 祐一(自然共生センター長)

●総合討論

14:20～15:05

15:15～16:45

●コーディネーター：中村 太士

●山室 真澄、島谷 幸宏、萱場 祐一、江崎 保男

(敬称略)

CPD認定：5.5 単位



「第17回 河川生態学術研究発表会」は、土木学会継続教育(CPD)制度の中級者、上級者向けのプログラムとして認定されています。

主催：河川生態学術研究会, 応用生態工学会

河川生態学術研究会の研究の目的

生態学的な観点より河川を理解し、川のあるべき姿を探ることを目的として実施する。目的の達成に向けては以下のようなテーマを設定し研究を進める。

1. 河川流域・河川構造の歴史的な変化に対する河川の応答を理解する。
2. ハビタットを類型化し、その形成・維持機構、生態的機能を明らかにする。
3. 生物現存量、種構成、生物の多様性、物質循環、エネルギーの流れを明らかにすることにより、河川生態系の構造と機能を解明し、河川に対する生物の役割を明らかにする。これらを用いて河川的环境容量を推定する。
4. 洪水や渇水などの河川が本来持つ攪乱などの自然のインパクト及び河道や流量の管理、物質の流入などの人為的インパクトの影響を明らかにする。
5. 河川環境の保全・復元手法を導入し、その効果を把握・評価する。
6. 1～5に関する結果を総合し、生態学的な視点を加味した河川管理のあり方を検討する。

会場までのアクセス

- ・東京メトロ 銀座線 虎ノ門駅
3番出口／徒歩5分
- ・東京メトロ 日比谷線 神谷町駅
4番出口／徒歩6分
- ・東京メトロ 千代田線 霞が関駅
A13番出口／徒歩10分



参加申し込み

FaxもしくはE-mailのいずれかでお申し込みください。

宛先：公益財団法人リバーフロント研究所内
河川生態学術研究会事務局 伊藤 将文 行

電話：03-6228-3860 FAX：**03-3523-0640**

E-mail：rfc-event@rfc.or.jp

ふりがな	
氏名	
所属	
連絡先	E-mail: 電話:
同行者氏名	
懇親会	(いずれかに○) 参加 / 不参加 ※ 懇親会(18:00~19:30 会場未定) 参加費:4,000円/人程度